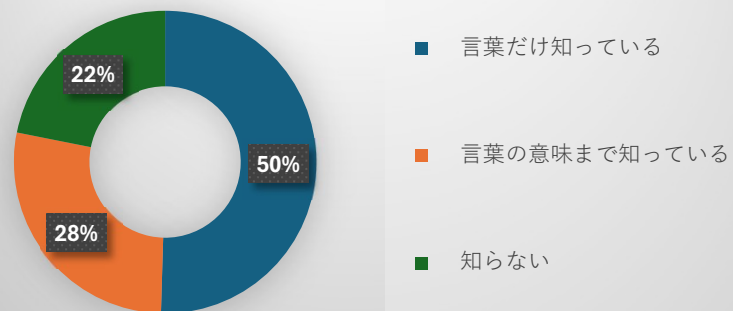


		単位 (人)
No,1	市民活動という言葉を知っていますか？	
	言葉だけ知っている	120
	言葉の意味まで知っている	66
	知らない	52

計238人

市民活動という言葉を知っていますか？

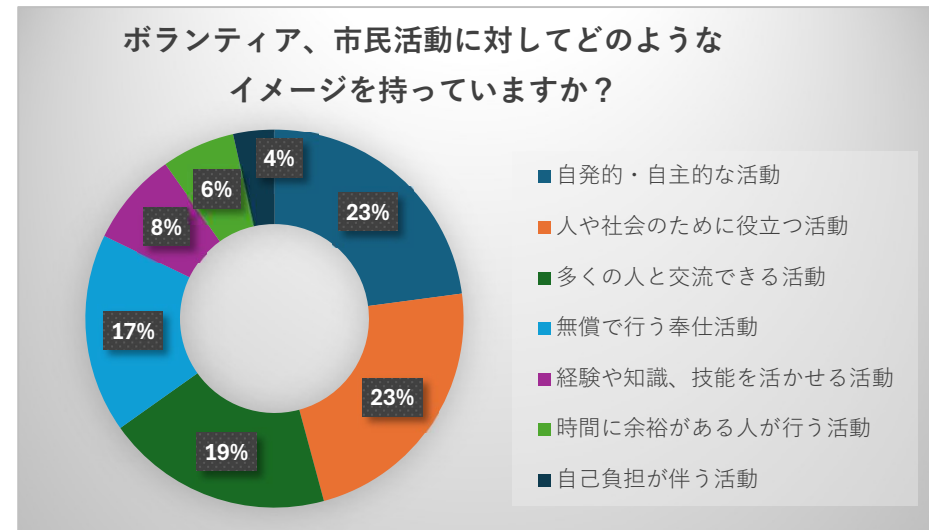


市民活動という言葉の認知状況について238人から回答を得た結果、言葉だけ知っている層が50%、意味まで理解している層は28%にとどまり、22%は言葉自体を知らないことが分かりました。認知は名称レベルに偏る傾向が見られます。

この結果を踏まえ、理解不足の層には具体例や効果を示す広報やパネル展を活用し、未認知層にはイベント等と連動した接点づくりを進めることが必要と考えられます。また活動者の声や事例発信により、市民活動を身近に感じられる環境整備も必要であり、これらの取り組みにより、市民活動への認知・理解の向上を段階的に推進できると考えられます。

		単位 (人)
No,2	ボランティア、市民活動に対してどのようなイメージを持っていますか？	
	自発的・自主的な活動	117
	人や社会のために役立つ活動	117
	多くの人と交流できる活動	99
	無償で行う奉仕活動	87
	経験や知識、技能を活かせる活動	41
	時間に余裕がある人が行う活動	32
	自己負担が伴う活動	18

計511人

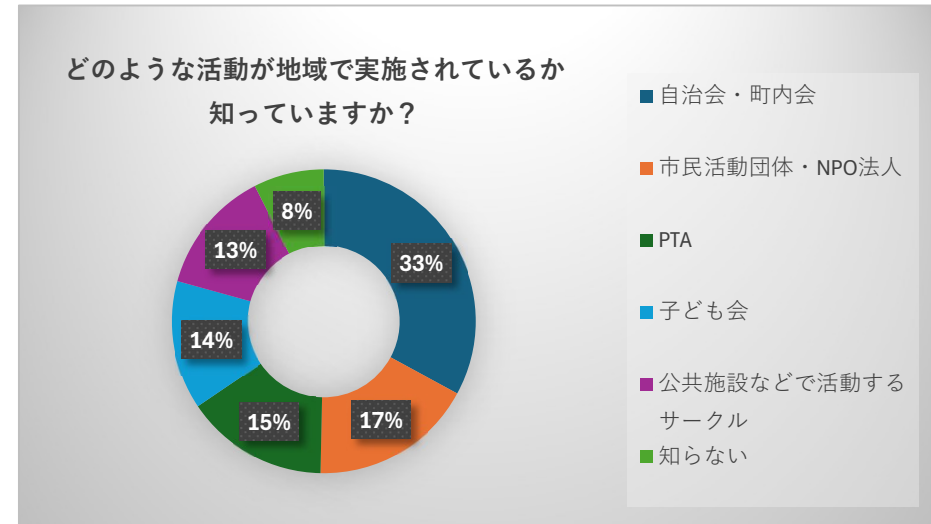


ボランティア・市民活動のイメージについて511人から回答を得た結果、「自発的・自主的な活動」「社会の役に立つ活動」（各117人）が最も多く、全体として前向きな印象が中心でした。また交流の場（99人）や技能活用（41人）など、参加メリットを挙げる声も確認されました。一方で、無償の奉仕（87人）や時間的負担（32人）といった否定的イメージも一定数存在します。

今後は、肯定的な層に対して交流機会やスキル活用の場を明確に示す広報を強化するとともに、負担感を抱く層には短時間・単発型の活動や多様な参加スタイルの提示が必要と考えられます。さらに、活動者の声や事例を発信し、市民活動の多様性と参加しやすさを伝えることで、参加のハードルを低減することが有効であると考えられます。

		単位 (人)
No.,3	どのような活動が地域で実施されているか知っていますか？	
	自治会・町内会	149
	市民活動団体・NPO法人	79
	PTA	69
	子ども会	62
	公共施設などで活動するサークル	60
	知らない	34

計453人

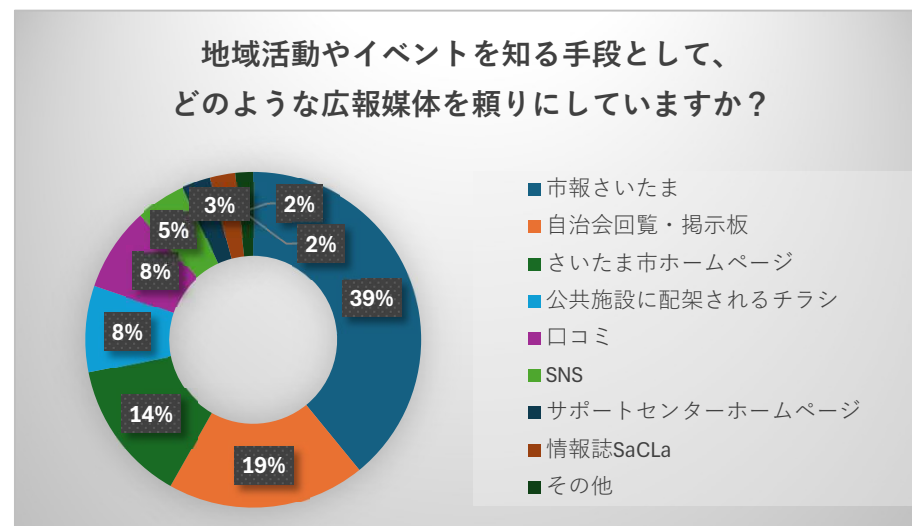


地域活動について453人から回答を得た結果、「自治会・町内会」(149人)が最も多く、続いて市民活動団体・NPO法人(79人)、PTA(69人)、子ども会(62人)、公共施設のサークル(60人)が挙げられました。一方で34人が「知らない」と回答しており、地域活動の実態が十分に届いていない層の存在が確認されました。

この結果から、認知が自治会・町内会に偏り、多様な活動が周知されていない状況がわかります。今後は、パネル展・動画・SNS等を活用した活動の可視化を進めるとともに、「知らない」層にはイベントや講座と連動した自然な接点づくりが有効であり、これらの取り組みにより、地域活動の認知向上と参加促進が図られると考えられます。

		単位 (人)
No,4	地域活動やイベントを知る手段として、どのような広報媒体を頼りにしていますか？	
	市報さいたま	160
	自治会回覧・掲示板	78
	さいたま市ホームページ	56
	公共施設に配架されるチラシ	34
	口コミ	33
	SNS	20
	サポートセンターホームページ	11
	情報誌SaCLa	10
	その他	7

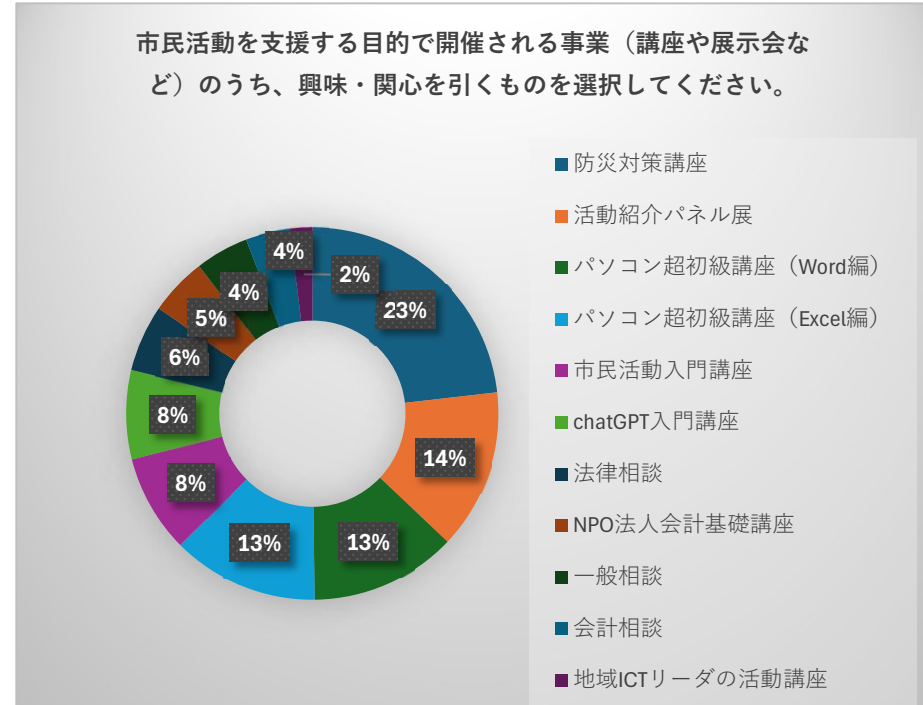
計409人



地域活動やイベントの情報源について409人から回答を得た結果、「市報さいたま」（160人）が最も多く、自治会回覧・掲示板（78人）、市ホームページ（56人）が続きました。主要な情報源は紙媒体や自治会経由であり、SNS（20人）やサポートセンターホームページ（11人）などデジタル媒体の利用は限定的でした。また、公共施設のチラシ（34人）や口コミ（33人）も一定の役割を果たしています。今後は、市報や自治会回覧を活用しつつ、情報の分かりやすい掲載方法を工夫するとともに、SNSやセンターホームページの認知向上を図り、併せて公共施設でのチラシ配架や口コミなど生活動線に沿った情報提供を強化し、より多くの市民に情報が届く環境整備が必要であると考えられます。

		単位 (人)
No,5	市民活動を支援する目的で開催される事業（講座や展示会など）のうち、興味・関心を引くものを選択してください。	
	防災対策講座	60
	活動紹介パネル展	36
	パソコン超初級講座（Word編）	33
	パソコン超初級講座（Excel編）	33
	市民活動入門講座	22
	chatGPT入門講座	20
	法律相談	15
	NPO法人会計基礎講座	13
	一般相談	12
	会計相談	10
	地域ICTリーダーの活動講座	5

計259人

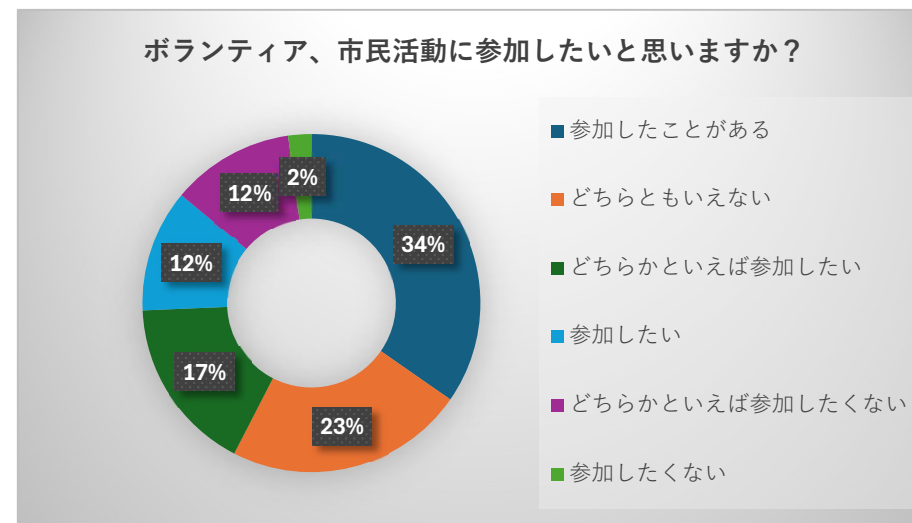


市民活動支援事業について259人から回答を得た結果、「防災対策講座」（60人）が最も関心を集め、活動紹介パネル展（36人）、パソコン超初級講座（33人）が続きました。生活に直結した実用的なテーマが支持される一方、市民活動入門（22人）、ChatGPT入門（20人）、法律・会計相談（計25人）、NPO会計基礎（13人）、地域ICTリーダー活用講座（5人）など専門性の高い講座は関心層が限定的でした。

今後は、防災やパソコン初級など生活密着型講座の充実を図るとともに、パネル展を活用した市民活動の可視化を進め、専門性の高い講座については、対象者を絞った広報や入門編との組み合わせにより段階的に参加しやすい構成が必要と考えられます。相談系事業については、具体例の提示などにより利用イメージの明確化を図ることが必要であると考えられます。

		単位 (人)
No.6	ボランティア、市民活動に参加したいと思いますか？	
	参加したことがある	62
	どちらともいえない	41
	どちらかといえば参加したい	30
	参加したい	21
	どちらかといえば参加したくない	21
	参加したくない	4

計179人



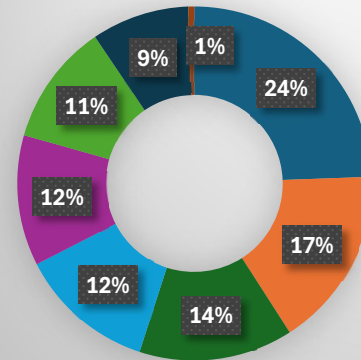
ボランティア・市民活動への参加意向について179人から回答を得た結果、参加経験者62人と参加希望層51人を合わせ、約6割が参加経験または参加意向を有することが分かりました。一方で、「どちらともいえない」41人や、消極層25人も一定数存在し、判断材料の不足や参加へのハードルがわかりました。

今後は、参加経験者・参加意向層に対して短時間・単発型の活動や初心者向け体験機会の充実を図り、また「どちらともいえない」層には、活動内容やメリットを分かりやすく伝える広報や参加者の声の紹介を進めることが必要と考えられます。さらに、消極層にはオンライン参加や短時間参加など多様な参加スタイルを提示し、負担感の軽減に取り組むことが有効であると考えられます。

		単位 (人)
No.7	ボランティア・市民活動に参加する際、どのような活動であれば参加しやすいと思いますか？	
	好きな時に参加できる	90
	気軽に参加できそうな雰囲気がある	61
	社会のために役立っている実感が持てる	52
	同世代との交流機会が増える	46
	自分に役立つ経験・知識が得られる	44
	趣味（興味）の範囲に含まれる活動である	41
	自分の知識や技術を活かせる	33
	その他	2

計369人

ボランティア・市民活動に参加する際、どのような活動であれば参加しやすいと思いますか？



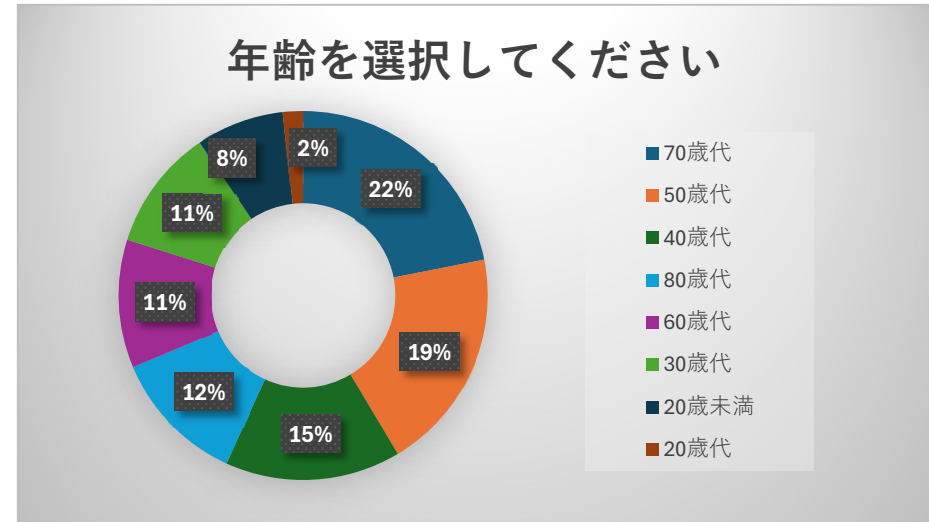
- 好きな時に参加できる
- 気軽に参加できそうな雰囲気がある
- 社会のために役立っている実感が持てる
- 同世代との交流機会が増える
- 自分に役立つ経験・知識が得られる
- 趣味（興味）の範囲に含まれる活動である
- 自分の知識や技術を活かせる
- その他

ボランティア・市民活動に参加しやすい条件について369人から回答を得た結果、「好きな時に参加できる」（90人）が最も多く、柔軟な参加形態が重視されていました。続いて、「気軽に参加できる雰囲気」（61人）や「社会の役に立つ実感」（52人）が挙げられ、心理的ハードルの低さや意義の実感が重要であることが示されました。また、交流（46人）、経験・知識の習得（44人）、趣味性（41人）、スキル活用（33人）など、楽しさや成長につながる要素も求められています。

今後は、短時間・単発型の柔軟な活動機会の充実や、気軽に参加できる雰囲気づくりを進めるとともに、成果が見えやすい活動設計や参加者の声の発信により、役立っている実感の向上を図ることが必要であると考えられます。加えて、交流・学び・趣味性を重視する層に向け、世代別交流企画やスキルアップ型の活動など多様な参加機会を提供し、参加の裾野拡大を推進していくことが必要と考えられます。

		単位 (人)
No.8	年齢を選択してください	
	70歳代	37
	50歳代	33
	40歳代	26
	80歳代	20
	60歳代	19
	30歳代	18
	20歳未満	13
	20歳代	3

計169人



		単位 (人)
No.9	お住まいの区を選択してください	
	大宮区	37
	岩槻区	33
	南区	26
	西区	19
	浦和区	12
	見沼区	11
	北区	10
	桜区	10
	中央区	6
	緑区	4

計168人

